令和３年度　長門市立仙崎小学校 研究概要

１　研究主題

主体的に表現できる子どもの育成
～　対話的な学びと学びが見える振り返りの充実と活用　～

２　主題設定の理由

昨年度より完全実施となった新学習指導要領では「知識・理解」,「思考力・判断力・表現力等」,「学びに向かう力・人間性等」を三つの柱として育成することが重要視されていることは周知の通りである。子どもたちにこのような資質・能力を育むために,「主体的な学び」,「対話的な学び」,「深い学び」の視点で授業改善を進めていくことが必要である。また,「どのような視点で物事を捉え，どのような考え方で思考していくのか」という「見方・考え方」を働かせることが学習と社会をつなぐものであり，子どもたちが学習や人生において「見方・考え方」を自在に働かせることができるようにすることも重要視されている。そこで，授業づくりを通して，子どもたちが仲間や自己と対話し，主体的に学習に取り組んだことを次の学びや社会につなげていくことができるような振り返りの充実が求められる。

本校では，令和元年度より「主体的に表現できる子どもの育成～問いや思いが膨らむ・つながる対話的な学びづくり～」を研究主題とし，教材や教材の特性を生かした，対話したくなる発問や課題づくりを中心に研究してきた。令和２年度は,「対話的な学びづくり」をより進化させ,「振り返り」を充実させるために「主体的に表現できる子どもの育成～問や思いが膨らむ・つながる対話的な学びと振り返り～」を研究主題とし，①対話が生まれる問い・学習課題の工夫　②対話的な学びづくり　③授業と授業をつなぐ振り返りの工夫に焦点を当てて研究を進めてきた。振り返りの時間を確実にとり，視点を明確にすることで，自己の学びをじっくり振り返る姿が見られるようになった。しかし自己の学び方を自覚する振り返りや，次時につながる振り返りについては課題が残った。また,「主体的に学習に取り組む態度」を見取る振り返りの視点のあり方については，さらに研究する必要がある。

そこで，今年度は「学びと振り返り」をより進化させ,「深い学び」に向けて振り返りの中身を充実させることで研究主題に迫りたいと考えた。振り返りは，どのような方法を使い，どのように思考し，どのように課題を解決したかを再意識化し，次にどのようにつなげていくのかを自覚する場である。これらの過程を通して，子どもたちは「この方法によって学びが深まった」「この方法を使ってさらに課題を解決したい」という実感をもつこととなるであろう。さらに，どんな時に，どんな方法を使うべきかを判断する力となり，本時の学びが次の学びにつながり，子どもたちの学びに向かう力（主体的に学習に取り組む態度）が高まるだろう。全教職員が本時で子どもに何を学ばせたいか明確にした授業づくりに取り組み，子どもたちの学びが見える振り返りを通して主体的に表現できる子どもの育成をめざして研究を進めた。

３　研究仮説

学びが見える振り返りの視点の工夫や，学びを振り返って活用する場を設けることで，子どもたちは学びを活用して主体的に学びに向かい，表現する力が育つであろう。

４　めざす子ども像（各ブロックごとに具体的な姿で設定）

低学年	友だちの考えと比べながら聞き，自分の言葉で表現することができる子ども
中学年	友だちの考えをじっくり聴き，自分の考えや学びを分かりやすく伝えられる子ども
高学年	自己の学びを自覚し，その後の学びにつなげることができる子ども
特別支援	自分の思いを相手に分かるように伝えられる子ども

５　研究の方向性（研究内容）

（１）対話が生まれる問い・学習課題の工夫

・必要感・必然性のある
　学習課題の設定の工夫
　（単元・本時の学習課題）

・課題を追究する問い・ゆさぶる問いの工夫

（２）対話的な学びづくり

・対話の土台となる温かな関係づくり

・反応すること・聴く態度を育てること

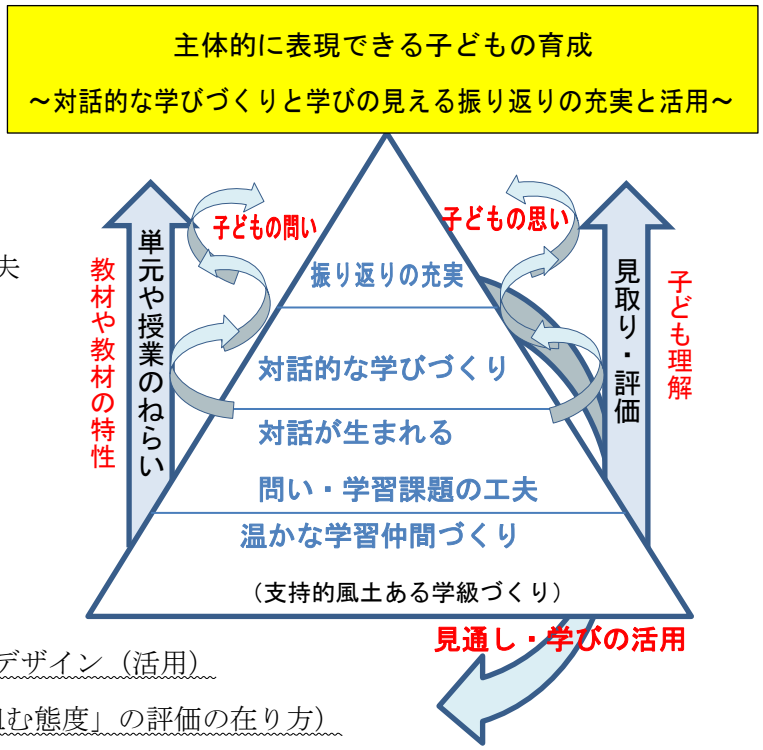
・子どもの思考の言語化と見取り

（３）学びが見える振り返りの充実と活用

・学びが見える振り返りの視点の工夫

・子どもの振り返りを生かした単元や授業デザイン（活用）

・振り返りの評価（「主体的に学習に取り組む態度」の評価の在り方）



６　研究の方法

（１）公開授業

○　指導者を招聘する全校授業・・・３回（低学年・中学年・高学年）　※総案作成

○　一人一授業（全員公開授業）・・・所属ブロックで授業公開を行い，放課後ミニ研修を行う。
研究主題・めざす子どもの姿を意識した学習指導案の作成と授業評価
※本時案作成

（２）学年・ブロック間による教材研究・授業研究

（３）フリートークの研究

（４）児童や外部による授業評価・・・学期に１回

7　研究の実際

月	日	研修内容
４月	１２日（月）	**◎子どもの実態把握・めざす授業観の共有** 第１回校内研修会 ・学習規律，研究の進め方，指導案形式の提案
５月	１２月（水） ２６日（水）	**◎授業づくりの方向性をそろえる** 第２回校内研修会 ・研究主題，研究内容の提案・学習課題，振り返り，評価について 第３回校内研修会 ・めざす子どもの像についてブロックで協議
７月	２９日（木）	**◎授業の具体の研修を深める** 第４回校内研修会　校内授業研究 模擬授業研修　教科【　国　語　】　（川村真理恵教諭） 「主体的に学習に取り組む態度」の評価に向けた振り返りの在り方 ・人権教育研修
８月	２７日（金）	**◎取組の改善・子どもを育てる** 第５回校内研修会 ・模擬授業形式による指導案検討
９月	１５日（水）	第６回校内研修会　校内授業研究【国語】海のかくれんぼ 授業者　１年２組　木島　香織　教諭
１０月	２７日（水）	第７回校内研修会 ・模擬授業形式による指導案検討
１１月	１７日（水）	第８回校内研修会　校内授業研究【国語】「鳥獣戯画」を読む 授業者　６年１組　鈴木　希美　教諭 指導者　長門市教育委員会学校教育課　指導主事 飯田　将之　様
１２月		・２学期の研修の振り返り
１月	２６日（水）	第９回校内研修会　校内授業研究【国語】うなぎのなぞを追って 授業者　４年２組　世良　倫華　教諭 指導者　防府市立華城小学校　教頭 長岡　正紀　様　　※コロナ拡大の為資料のみで実施
２月	９日（水）	**◎研究のまとめ** 第１０回校内研修会 ・本年度研究の振り返り（成果と課題の整理）
３月	２日（水）	第１１回校内研修会 ・研究のまとめと来年度に向けて

9・15　１年授業風景

11・17　研究協議風景

1・26　４年授業風景

８　研究の成果と課題

（１）　成果

①　対話が生まれる問い・学習課題の工夫

○　Which 型や疑問形（「なぜ～かな」「どれが～かな」など）の学習課題を提示することにより，思考のズレが生まれ，子どもたちが意欲的に話し合いをする姿が見られた。
○　授業中の子どものつぶやきや発表を子どもに返すことで，全体での対話を生むことができた。
○　導入時に振り返りや感想など，子どもたちから出た疑問を投げかけることで，子どもたちが自分事として課題をとらえ，意欲的に学習を進めることができた。

②　対話的な学びづくり

○　学級の実態に合わせ，ペアやグループなど形態を工夫したり，自分なりの言葉で伝え合う場を設定したりすることで，自分の考えを抵抗なく伝える力がついてきた。
○　中学年以上はタブレットを活用することで視覚的にも考えが整理され，対話に参加する子どもが増えてきた。
○自分の考えを書く場面を授業内に設けることで対話につなげてきた。また，友だちに「どういうこと？」「なんでそう思ったの？」と問い返すことで対話から新たな考えを引き出すきっかけとなっていた。

③　学びが見える振り返りの充実と活用

○　どんな振り返りを子どもが書けるとよいかイメージして授業づくりをすることで，子どもが主体となる授業づくりや，振り返りを使った導入・課題提示などを仕組むことにつながった。
○　振り返りの視点を提示したり，学習課題を提示した時点で「どんな方法でできそう？」など投げかけ，解決に向けての見通しを持たせたりしておくことで，振り返りで最初の自分の考えからの変化や解決までの思考を整理して書く姿が増え，書くことの質が高まってきた。

○　全校研究授業を３本とも国語科の説明文教材で行った。説明文の系統性を学ぶことや、叙述を根拠にした指導や、資料を活用した課題、振り返りを通した評価の研修も深めることができた。

（２）　課題

①　**子どもの思考をつなぐ教師の役割**

子どもたちの発言から再思考して学びを深めることができる授業づくりをめざしたい。そのためには、教師が発言や思考をどのタイミングでどのように切り返せばよいのか、授業をデザインする力が必要である。

②　**振り返りと見取り**

「主体的に学習に取り組む態度」をしっかり見取って評価したい。振り返りで自己の学びを振り返ることができるような視点の工夫や、発言や思考の見取りなど、研修を継続したい。